

1. 快適に住み続けられるためのポイント

① 変化するニーズへの対応	新築・購入時	将来対応
道路から玄関までの高さ及び距離、空間を考える		
玄関の広さを確保		
間取りの可変性(間仕切り壁や排水管設備等)		
シンプルな動線の間取り(寝室とトイレ・浴室が近いなど)		
手すりを設置するための壁の下地補強		
② 安全・安心(転ばない、すべらない、大げがしない)	新築・購入時	将来対応
転倒によるけがを防ぐ(すべりにくい床材、緩やかな階段など)		
つまずかないための工夫(出入口の戸の敷居、段に色をつけるなど)		
手すりの設置又は将来の設置を考える(玄関、トイレ、浴室、階段、廊下)		
浴室の安全性(出入口の段差、浴槽の高さと深さ、脱衣室との温度差)		
緊急時に知らせる呼び出しボタンなどの設置		
③ 使いやすさ・快適性	新築・購入時	将来対応
設備機器(足元の空いている洗面台、音声案内のあるキッチンセットなど)		
照明器具(適度な明るさの確保、器具の交換のしやすさなど)		
スイッチ・コンセント(手が届きやすい位置、操作しやすい形など)		
水栓金物(操作が楽にできるレバータイプなど)		
建具(引き戸などの形状、使いやすい取っ手、ガラス窓付きの戸など)		
④ つながり(外出しやすい、訪問しやすい)	新築・購入時	将来対応
家族や訪問者とのコミュニケーションがしやすい(部屋の配置、出入口の形状、モニター付きインターホンなど)		
サービスを受け入れやすい(介護サービスなど)		
2. 家の基本性能	新築・購入時	将来対応
①耐震性能、防災・防火性		
②耐久性能・維持管理(メンテナンスのしやすさなど)		
③防犯性能		
④省エネルギー対策(断熱性、省資源など)		
⑤健康(日当たり・風通し、シックハウス対策など)		



今はどこに重点をおくか、チェックリストも参考にしな。

できているかなあ！？



手すりの取付け

手すりは転倒防止や移動のために有効です。特に設置して便利になる箇所は玄関、階段、トイレ、浴室、廊下などです。

階段

最初と最後の一段がバランスを崩しやすいので、手すりは水平に伸ばしておきます。



トイレ

手すりの位置は、立ち座りがしやすい位置を確認してから決めます。



浴室

手すりの位置は、移動・浴槽の出入り、立ち座りなどを確認してから決めます。

Point

手すりの形

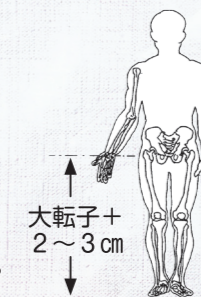
洋服の袖などが引っかからないように、手すりの端部は壁や床側に曲がったものを使うと安心です。



Point

手すりの高さ

廊下などの横方向の手すりの高さは、一般的に立った状態で大腿骨大転子より2~3cm高い位置(腰のあたり)に設置すると使いやすくなります。実際に使う人の使いやすい高さを確認してください。



袖を引っかけて転ぶと大げがにつながるよ。

